

Kamiyo Watanabe BLD.
紙与渡辺ビル

中央区天神1-12-14

2000年10月完成 / 事務所・物販店舗 / 所有者:紙与産業(株)

設計者:(株)日建設計/施工者:清水・鹿島建設共同企業体



美しい文章と同じように、都市景観にも「空間の流れ」がある。この都市空間の文化的な脈絡をコンテクストと呼び、建築物が美しく存在感を高め、未来への時間の流れを予感させることが都市景観に値する最も重要な要素である。この点において紙与渡辺ビルは都市空間に落ち着いた佇まいを創り、夜間において

も人の流れを絶やさず、天神という空間のコンテクストに見事に調和させている。決して目立つ建物ではないが、むしろ何処かに無地の余韻が残されており、デザインしない男気と決断を示していることが、逆に力量を感じさせる。本来の景観の価値はこうであったか、という大切な原点を教えてくれるようだ。

(審査委員 落合 太郎)

FUKUOKA URBAN BEAUTIFICATION AWARD 2001 FUKUOKA URBAN BEAUTIFICATION AWARD 2001



Marinoa City Fukuoka

マリノアシティ福岡

西区小戸2-12-30

複合商業施設 / 2000年10月完成 / 所有者:福岡地所(株) / 設計・施工者:戸田建設(株)九州支店

関係者:ザ・ジャーティ-パートナーシップ社

福岡市は今、西に向かって発展している。都市高速の延伸や九大移転、その周辺の住宅開発は、バブル崩壊後の日本とは思えないほどの盛況ぶりである。ややもすると単調になりがちなこうした郊外開発に強いアクセントを与えているのが、この海に大きく開けたマリノアを背景にしたマリノアシティの商業コンプレックス(複合体)である。この建築群は、キャナルシティやマリパレインをしのぐアミューズメントの器とコンテンツ(内容)を提供しながらも実に軽快である。土地の属性や建築の形態にとらわれず、市民の求める遊び心の移り気に変幻自在に対応していけるような身軽さである。これからの商業空間が作り出すべき空間の軽さを象徴する景観がそこにある。

(審査委員 西山 徳明)

